

カラー	■アンコール遺跡	黒田	武志	18
巻頭言	●悲しみを超えて			20
特集	●アンコール・ワット紀行	佐藤	俊明	41
	●アンコール・ワットは祇園精舎(?)だった	石澤	良昭	55
	——宇宙観・巨大規模・華麗美術——			
	●天竺報恩旅行	坂井	司	67
カラー	■追悼 故黒田嘉さま			92
エッセイ	●「聖地」・イサーン	落合	隆	97
	●泰国行脚日誌	水野	克彦	104
留学記	●忘れえぬ人々(1)	島	堯英	115
	●インドの学校事情 その四	高橋	晶子	119
エッセイ	●聖地巡礼——ケダルナート	清水	弘美	123
	●神話のいきづくヤムナー河畔 (その三)	及川		127
	●善光寺海外留学僧派遣遺育英会『論文集』発刊			130
	●第八回育英生決定			133
	●第八回育英生入選論文			162
善光寺だより	洪井修、ペルキ・ローフ (大玄)、韓仁徹、韓京愛、権来順、李煥秀			166
読者からのお便り				

題字・さし絵
 グラビア 樋口英夫・五十嵐千彦
 伊藤三喜庵

悲しみを超えて

四月にカンボジアに行つてまいりました。このごろ毎日の新聞にカンボジアのことが報道されない日とてなく、カンボジアはまさにいま世界注目の国であります。

この国に、善光寺海外派遣留学僧が二年も前から入国して孤軍奮闘しているのです。渋井修という真言宗の坊さんです。

カンボジアはかの悪名高いポル・ポト政権が嚴重な鎖国体制のもと、宗教・文化活動を禁圧し、二百万人を虐殺しております。渋井師はその虐殺の現場に足を運び供養を手向けるとともに、今日あることを予測してカンボジアの人たちに日本語教育をおこなつておりますが、ポル・ポト時代壊滅的な打撃を受けた仏教界がいまようやく復興に立ち上がるつとしておりますので、師の活躍範囲は今後いよいよ増大するであろう。ことに、カンボジアには世界屈指のアンコール遺跡群があり、いよいよ日本がその修復に乗り出すことになり、その権威者石沢先生が顧問でも

ありますので、善光寺海外留学僧派遣育英会としては可能な限り、日本とカンボジアの仏教の親善友好に尽力したいと思っております。

次に私はこの一月に母をあの世に送りました。人が死別に際して悲しいのは、それが永遠の別れであるばかりでなく、生前、あれもしてやりたかった、これもしてやりたかった、あれもしてやれなかつた、これもしてやれなかつたという悔恨の情が加わるからだといった人がありますが、まさにそのとおりだと思います。

目連尊者は神通力を得て、何はさておいてもいまは亡き父母に思いを馳せ、ことに母の「乳哺養育の恩」に報いようと決心され、実行されたのが孟蘭盆の起源であり、私はいま初盆を迎えて感無量なものがあります。

親鸞聖人は、「父母の孝養のためとて一返にても念仏申したることいまだ候はず」といつております。すべての人を救う念仏を、仏法を、私も父母に対する孝順供養のために私物化せず、世界平和のために微力を捧げる所存ですので、何卒皆様の御支援のほどをお願い申し上げます。